

◆うそニュース

★

【環境総合評価入札制度の導入】県は、公共事業の発注にあたり、指名業者の要件として、当該業務に関わる主任技術者が水俣市内で行われる環境学習プログラムの受講経験を有することを盛り込んだ新入札制度を導入し、来年度発注分から実施することを決めた。初年度は、アンケート調査や計画策定業務委託を対象とし、順次建設工事、物品納入にも対象を拡大していく。県内各市町村も県に追従する見込み。同制度の実施により、水俣市内での宿泊や飲食需要が創出され、初年度は500万円の直接経済効果が生まれると担当課は試算している。最終的には年間4000万円の経済効果を見込む。今後、具体的な手続きについて最終的な詰めを行う。山都町では、町内にある通潤橋（江戸時代未完成）の当時の資金調達スキームの学習を要件に加えるよう県に働きかけている。（記者：加藤ムリヤ）

★★

【バイバイ for ever】今月行われた3町の首長・議会議員選挙において、予期せぬ事態に候補者が当惑する状況が生まれ、選挙戦のあり方を問い直す動きがネット上で広がっている。この発端は、選挙戦初日の10日、コンビニ前の交差点で信号停車中の選挙カーに向かい散歩中の園児の団が「バイバイ」と手を振ったことだった。「ご声援ありがとうございます」との反応に喜んだ園児たちはさらに大きく「バイバイ、おばちゃん」と声をあげた。候補者は男性だ。コンビニ駐車場にいた若者が「バイバイ、おばちゃん。永遠に」とヤジを飛ばすと、これを園児が真似た。慌てた候補者本人がマイクを握り園児に向かい公約を訴え始めたが、「バイバイ、おじちゃん。永遠に」との声援が返され、これには沿道の住民からも選挙カー内からも苦笑がこぼれた。この一部始終がツイッターやフェイスブックで情報発信され、早くも当日午後からは選挙カーに手を振る人が急増した。「あの選挙カーはどうにかならないものか」と苦々しく思っていた有権者は多く、近く選挙を控えた自治体でも「バイバイ for ever」運動を呼び掛けるツイートが増えている。従来の“候補者名連呼型”の選挙運動はもはやできそうにない。なお、この発端となった町は県内有数の観光地で、以前から子どもが観光バスに向かって手を振る運動をしており、園児たちのバイバイがカワイイと評判になっていた。（記者：西野ヘナ）

★★★

【間伐材からマルチングシート】県林業試験場と農業試験場は、間伐材を使った農業用マルチングシートの製造技術及び農業生産技術の実用化に目途が立ったとし、近く、地元企業と共同で生産に入る。開発されたのは、間伐材にカンナをかけて取りだした薄さ0.2mmの紙状の板を糊で貼り合わせシートで、従来のビニール制のものと同じ使い方とする。作物に応じた栄養素や土壌改良剤を染み込ませていることが特長だ。住宅需要の減少や新建材の普及で県産材の消費は低迷しており、これまで木造コンビニエンスストアの建設や携帯電話のケースや名札、名刺に木材を使用するなどの消費拡大策は取られていたが、効果は限定的だった。新製品は、約1年で土にかえり肥料となることから、使用済みシートの処理費用が要らず、野焼きによる環境汚染もなくなる。たばこ生産が盛んなJA菊池管内の自治体職員は、「春先に風に舞ったマルチングシートを“妖怪一反木綿”と間違えた通報に苦慮していたが、それもなくなる」と期待を寄せている。（記者：あやしか）

